

令和4年度 発達支援室あかねっこ保護者会

講演 吉田由紀子

**将来の自立に向けて親がどう取り組めば良いか？**

1. 一人で抱え込まない

「親なき後は、突然やってくる」

お母さん一人でいろいろ抱え込まず、お父さんや祖父母、兄弟、親戚の協力体制を作っておくことが大事

子育ては、協働作業である。家庭だけで抱え込むものでもないし、学校や、支援機関に丸投げするものでもない。

2. 獲得したものを、どう定着させるか？

人の記憶の残存率

1 時間後 44%

1 日後 26%

1 ヶ月後 21%

繰り返し、学習したり、人に伝えたりすることで、残存率が上がり、定着していく。

新しいことを教室で習ったら、帰り道に繰り返し、話題にしてみることで定着率は上がる。

↓

毎日、繰り返し取りかかれるものを、家庭生活の中でみつける。

例①: 視覚認知を高める。

目と手の協応の力を高める。

↓

洗濯物の取り入れ、靴下を揃える

例②: 言語指示を聞き、その通りに行動できる力を育てる。

↓

上から二番目の引き出しに靴下を入れて

一番右の引き出しにハンカチを入れて

### 3.言葉の指示に従って動く力を育てる

社会の中で働くために、一番大事な力であり、言葉を聞いてその通りに動くことは、「人に合わせる力」を育てていくことになる。

以上の三点をしっかり実行する時に大事なこと

子供にとって必要なこと

安心できる場

安心して眠れる

おいしい食事

自分を支えてくれる人

いつでも困った時に支えてくれる

健全な依存関係

そのための関わり方

①マイナス語ではなくプラス語で

×「〇〇しない」

○「〇〇しよう」

②対応

しっかり褒める

しっかりしかる

注目行動に対しては、褒めるまでの待機時間と考えて、無視する。

③10分前予告をしてから指示を出す

突然、指示を出さない。

④わかりやすい指示を出す

数字にしてあげたり、明確に言い、あやふやな言い方をしない。

⑤言葉と心を一致させる

顔は怒っているのに、言葉では仕方なく誉めている。これでは子供が混乱し、将来の対人関係に悪い影響を与える。

⑥子供の要求を聞く時



感情を入れずに、リピートしながら聞いてあげ、最後に親としての理由を話して、ダメか、将来の希望につなげてあげる。

⑦魔法の言葉を持つ

安心を与える言葉、元気にする言葉、一人一人違うので、必ず効果のある言葉を見つけておく。

以上のことを基本にして関わり、  
「生きる力を育てる」—自立度(LQ)評価とその育て方—  
(近日中、発売予定)

具体的に何を育てておけば良いかを評価して、我が子の状態に合わせて、課題を設定して一つひとつ丁寧に取り組んでいって下さい。

以上

本資料は、「発達支援室あかねっこ春日町教室（放ディ部門）（児童発達支援部門）」  
「発達支援室あかねっこ大泉教室」  
「発達支援室あかねっこ練馬教室」  
の4教室の、令和4年5月に開催された保護者会において配布された講演資料です。

東京都練馬区春日町1-18-36 われもこうビル  
社会福祉法人あかねの会  
理事長 吉田由紀子

Copyright 社会福祉法人あかねの会 2022